

吉田地区タウンミーティング議事録(要旨)

○日時 2025/11/7 19:00～20:10頃

○場所 吉田支所

○参加者 30人

○説明者 市長、企画政策部長、建設部長、商工観光部長、健康福祉部長

○議事録(要旨)

※個人情報や個人が特定される内容などは省略しています。

市長

こんばんは。市長の百瀬でございます。今日は立冬を迎えたけれども、今年は本当に秋がなくて冬に来た今日も外も大変寒い中、そして1日お疲れのところでタウンミーティングを開催いたしましたところ、多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。タウンミーティングは11月の20日から始めておりまして、今日が7カ所目になります。今日も、皆さんとぜひいろいろな対話ができればと思っております。是非遠慮しないでストレートなお話をいただいた方がお答えもしやすいと思っていますので、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。それでは若干時間をいただきまして、私の方からお話をしたいと思っております。

※(省略)吉田地区の説明(別添資料)

※(省略)令和8年度予算編成方針について説明(別添資料)

今駆け足、早口でお話をいたしました。このような形で今、市政を進めている状況でございます。そして、最初に、各地区からの要望ということで、区長さん方から要望をいただいておりますので、それにまずお答えをしていきたいと思っております。

1つ目が、えびの子水園東側工業団地造成に伴う交通量の増加に伴う懸念ということあります。今も朝の時間帯を中心に渋滞が激しい、そういう状況がございます。そこにですね、工業団地が新たにできればさらに渋滞がひどくなると予想される。そういう中でですね、高速道路へのスマートインターの設置をまず先に行うべきではないか、北インターありきではなく、導線の整備を行った上で工業団地の誘致・計画をした方がいいのではないかと、そういう要望をいただいております。今、スマートインターでありますか、私もですね、ちょうどセイコーエプソン

の東側のところにスマートインターがあれば、これは塩尻北インターの周辺、また塩尻インターの周辺も渋滞が緩和されますし、いわゆる抜け道として生活道路を抜ける車が非常に多い、そういう状況がありますので、そういうのも抑止できると思っております。

スマートインターの方ですけれども、NEXCO中日本さんには話をしておりまして、まだまだ要望というところまではいってないんですが、何とか実現ができていけばいいかと思っております。ただ、スマートインターは非常に時間を要する、そういう事業でございます。この前開いた諏訪湖のスマートインターは、2009年に検討会を始めてから要望等を始めまして、この年の7月に供用を開始していますので、16年かかっております。2023年の12月にオープンしました筑北のスマートインターも国への要望活動等を始めて、そこから9年の歳月を要しておりますので、非常に年月を要しますけれども、スマートインターの活用を含めることができればいいと思っております。

先日も国への要望活動がありまして、国土交通省の高速道路課にもスマートインターの話をしました。国としてはですね、やっぱりスマートインターがあれば、それだけ地域の皆さんの安心安全が守られますし、いわゆる物流の停滞、また環境にも当然優しくなる、そういうことで推進をしているので、ぜひ相談をというお話をいただいておりますので、こちらはですね、進めていきたいと思いますが、順番的にはどうしても工業団地の方が先になっていくと思います。今、工業団地もサウンディング調査としまして、出てきたい企業があるのか、またどんな業種が出てくるのか、そういうところで大分ですね、交通量も変わってまいります。

塩尻は物流の先進地でありまして、物流がくるとですね、トラック等の交通量は増加しますけれども、今、物流拠点は従業員が少なくて、ほとんど自動化されていますので、働く方の車の数は少ないそういう状況がありますし、製造業等の事業所も来ると、駐車場は今度逆に非常に増える。また、今、データセンターとか、そういうものの誘致もありますけども、そういうものができるとほとんど人の雇用は生まれない、そういう状況がありますけれども、どんな引き合いがあるかは見極めながら、これは地元の皆さんと産業の部長の方と、またしっかりと議論をしながら進めていきたいと思っております。

そして、もう一つ、2つ目でありますけれども、高齢者の移動手段についてであります。高齢者の移動手段について、市はどのように考えているのかと、そういうお話をいただいております。また、タクシー券についての制限の緩和とか交付枚数、そして今移動支援のボランティアのお力を借りて移動支援を担っているところがございますので、そういうところのサービスについても根本的な対策をとってほしいという要望をいただいております。

私ども、これからですね、やっぱり交通体系を考えしていく上で、移動に困らない街をつくるというの非常に大事だと思っております。それは高齢者の移動もそうなんですけれども、これから部活が地域移行を始まっておりますし、今子どもたちの数が減っておりまして、合同でチームを編成する、そういう状況になっております。その中で移動手段がないから部活ができないというのはあってはならない話でありますので、そういったところの移動手段も検討しております。

吉田地区はですね、まずのるーとというですね、非常に面的に整備されたものがありますし、あと塩尻北部線と言いまして、朝なんですけども、駅を通ってまつもと医療センターまで行く、そういうバスが通っています。ここはどういう方がどういう利用をしているのかというのをしっかり分析をしながら進めていきたいと思っております。例えば、まつもと医療センターが目的地だとすると、そこまで運んで、さらに受付等のそいつたところの支援まで必要なのか。それともですね、バス停まで行けるようになつていれば、そこからはバスに乗つていけるのかとか、様々なパターンがありますので、そいつたものも分析しながら進めていきたいと思っております。

一度ですね、この移動支援については、どこでも市長室でも話をさせていただきました。その後、大きなアクションがとれてないのが申し訳なく思つてはいるんですけども、移動支援もこれから必要な時代になっていきます。公共の力だけでは移動支援はなかなかできないものになってきておりますので、皆様の力を借りしながら解決していきたいと思っております。また、細かい補足等は部長の方からありますが、とりあえず大丈夫ですかね。今お話2点をさせていただきました。まずは区長さん方のほうから、この2点について追加のご意見をいただくことができればと思っておりますので、どなたかご発言がありましたら、今、マイクをお持ちいたしますので、お願ひいたします。

市民

丁寧な説明ありがとうございました。最初の方の工業団地の交通網の対策のことで、お願ひというか、お尋ねしたいんですけど、今スマートインターについてはすごく時間がかかっちゃうので、できたらこれは市として働きかけていきたいということがわかりました。ただ、工業団地、多分早くできると思いますので、今、吉田地区内ですごく車が多いです。

ということで聞きたいのは、今、建部社の前のところは東通線で事業化がされていて、今年度中に拡幅されていくんですけど、そこから北のところが未着工になっているということで、

工業の団地化されちゃうと、また高速からすごく車が出てくるってことで、要は残った部分のところの事業化がいつごろ計画をしようとしているのかということと、あわせて、この工業団地できたときに、前に道があるんですけど、地区要望してるんですけども、交差点から東の方へ行くと道路がぐっと縮まっているということで、あの道路の拡幅ということも工業団地化の中に見て入ってるのかということです。これがうまくいったときに、できたら、今、東通線以外に西通線というのを多分市の方で計画していると思うんですけど、できたら西通線の方を通していただいて、高速道路の方にうまくつないでいっていただくと、交通の自動車が地区内に入らなくなってきますので、それについてお考えをお伺いしたいと思います。

市長

ご意見ありがとうございます。塩尻の道路体系ですけれども、真ん中に国道19号線がありまして、今4車線化も進めておりまして、それが大きな背骨になっております。東側には東通線ということで、建部社のところも今工事を進めており、ご迷惑をおかけしております。そして、もう一つ西通線という通線があります。道路の進捗の方はまたお話をしますが、東通線はですね、ある程度計画的に進んでおりますけれども、西通線は、今、道路の形は描いてはあるんですけども、この通りに進めていくのが困難な状況もありますが、できるところは進めている、そういう状況でございます。一例を申し上げますと、新しく体育館ができまして、そこから降りて真っすぐ広陵中の1本先に行きますけれども、そのくーっと狭くなったところはですね、これで広げていきまして、綿半の方からくるあの広い道とですね、ぶつかるような、そんな線形を描いております。そういったところでいきますし、信号から東側の道でありますけれども、フェリスケールの看板が高速沿いから入ってくるとあるあの道でよろしいですか。

市民

あれよりもっと南側の道。ほとんどずっと行って、えびの子の交差点があるんですけど、そこから向こうがずっと田園地帯になっていて、道路がちょっと狭まってるんですね。

市長

はいわかりました。そこもありますし、朝が一度に集中をしてくるので、渋滞が激しくなる傾向がありますので、どういう見通しになってるか建設部長から話をいたします。

建設部長

はい。東通線、西通線の事業の関係ですけれども、まず一つ、拡幅工事という工事で事業を進めておりまして、そこには必ず土地を持って建物が建っているとか、田畠であれば土地の所有者もいます。その方たちにまずはその事業協力を得なければ、私ども一生懸命お金をかけたとしても、なかなかできないのが実態です。東通線の今、吉田でやっている場所については、地元の区の方に力を借りまして、地権者それぞれお話をさせていただいて、協力していただけるといったことで、早く事業化をさせていただきまして、今、工事を進めているところですけれども、そこから多分今、支所の方へ向かっては2車線あるんですけれども、実際は計画幅員までの幅員が取れていないのが実態であります。既にもう全部住宅が建っているとか、そういう部分がありますので、そういう方たちに協力していただけるということであればですね、私どもも事業を進めたい、進めていけると思いますけれども、なかなかある程度の路線の延長で全ての地権者に合意形成を得られませんと、部分的な工事ですと、どうしてもこの事業に対する事業化が非常に難しいといった状況でございますので、その辺は地域と協力しながら、ぜひ地域の力を借りしながら事業を進めたいというふうに考えております。

また、西通線についても同様ですね、なかなか地権者の合意形成に時間を費やしているといった状況ですね、市としましてもまだまだ50%いかないような整備率でありますので、何とかそういうところを進めたいというふうに考えているところでございますので、ご理解をお願いいたします。

広丘地区、吉田地区、それぞれこの渋滞のかかる部分については、事業所との話し合いを年に一度くらいしているというお話を聞いておりますので、その中ですね、できれば時差出勤をお願いするとか、そういうソフト面での対応も非常に大事になってくると思いますので、そういうことを含めて、今後していく必要があるのかなというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

市民

高齢者の移動手段についての課題ですけれども、ここで説明するのが難しかったので、別途資料を追加で渡ってるかと思いますが、要するに高齢者の移動手段というのは、吉田地区の問題というよりも、塩尻市全体の問題でもあるんですけども、一度、社協のボランティア団体で、先

ほど送迎サービスを通じて、どこでも市長室というところに1年半前にお願いした経緯もありますが、それ以後、結果的にそんなサービスがあつたら私も受けたいというサービス側が殺到してしまって、ドライバーが増えなかつたという実態があります。もともとかなり実費支給のボランティアで足が出るような活動だったものですから今年の4月からはキロ15円が20円にはなっていますが、相変わらずドライバー不足という状態で、実際にはそういうボランティアに頼っている部分も結構あるとは思うんですけども、そこを改善している自治体もあるなというのをこの間確認しました。

それで、資料を追加で送らせていただいたんですけども、日本でもいろいろな市町村が移動手段で困ってる自治体があって、そこの自治体がうまくやってる自治体の、参考にできないかなということで、今、私のいろいろ分析した中では、もう有償ボランティアにすればもう少し何とかなる。ほとんどのところが有償ボランティア、要するに無償ボランティアではもうほとんど人が逃げていってしまって、足が出る活動ではついに人がいない状態に今なって危機的な状況に達しています。そういう意味ですね、できれば他の自治体のうまくいってるところを参考にしていただいて、もちろんのるとや北部線といったものも利用していく人達はいいんですけども、そうでない人たちも結構いる、そこをカバーしていただきたいなというのが、このままいったら社協に丸投げになっちゃうのかなと思いまして、できれば福祉課の方で見ていただければと思って、追加資料も出させていただきました。よろしくお願いします。

市長

ありがとうございます。資料を頂戴しまして、町田市や長岡市の事例もございますし、ご指摘のとおりですね やはりボランティアだけではこれは当然なり得ないことがあります。それは道路輸送をしてしまう。要はですね、料金をもらって輸送してしまうと、いわゆる許認可があって、白タクみたいなふうに見られかねない。そしてもう一つは、有償福祉輸送という制度がありますけれども、また今はいろいろ運送に関しては規制緩和が進んできておりますので、そういうのをうまく使わなければならぬと思ってます。

私ども、社協に丸投げというのではなく、市も責任を持って取り組まなければならぬ事案だと思っておりますので、また実際に取り組みをされている方ともお話をしながら進めていきたいと思います。広報塩尻でも記事にしましたら、逆にサービスを求める方だけ増えてしまつて、事業が大変になつたって、そういうお話を伺いましたので、やはり求める側と提供する側のバランスが取れて初めて成り立つ、そういう事業でございますので、いい着地点を見つけてい

きたいと思います。

市民

一つまず交通の関係です。けども、今、西通線、東通線の話は盛んに出ておりますが、国道の方の4車線化の方の進捗をお聞きしたいと思っています。最近、何か広がりそうな雰囲気があるんですけど、この先の計画があれば教えていただきたいと思います。

市長

国道の4車線化でありますけれども、九里巾の交差点とか、もっと早く進む予定だったのが足踏みをしておりますけれども、今、高出までは事業区間の認可をいただいている状況でございます 細部の工事の進捗、金塚の交差点のあたりとか、部長の方からお話を差し上げます。

建設部長

一応、現在のところ、金塚の交差点のところは、もう今建物を壊して、補償の方終わって建物を壊し始めておりまして、今のところですね、その付近も現在、用地交渉の方に入っておりまして、具体的なお金の提示ですとか、そのあの代替地とか、そういう具体的な、今交渉に入っているところであります。それがまとまった段階で、一応その先は九里巾の交差点まではある程度用地確保でありますので、工事に入ればここ数年の間には着手できるような形で進めておりまし、用地交渉がどうしても時間がかかるてしまうということで、そのところをですね、今市も一緒に手伝いながら国と一緒に事業を進めているところでございます。

そこから九里巾から先については一応国道の方で幅杭を打ちまして、ある程度地権者に対しての説明会の方は全て高出まで終了しておりますので、その中ではある程度順調に事業は進んでいくのかなというふうに今のところ計画を考えているところでございます。

市民

その近くはなかなか開かないなと思っていて、用地買収が苦労しているんですかね。

建設部長

その付近はある程度、土地開発公社の方で土地を持っておりますので、今、国の予算がある

程度上限がありますので、その部分を今調整しております、一応国の持っている予算で足りるようであればですね、土地開発公社の方から國の方へ土地をお譲りしていくといったような状況でございます。

市長

あわせまして、その場所ですけれども、変則的な交差点になっておりますし、子供たちの歩く道でもあってですね、接道する県道も交差点、国道の4車線化に合わせて改良できるように、今、県にも要望をしております。ある事業所も自分のとこの敷地を歩く道にご提供いただいてるんですけども、まだ狭いと、そういう状況でございますが、国道と掛け合わせて整備していきたいと思っております。

市民

あと、高齢者の移動の件でのるーとかだいぶ進んできてるんですけど、もう少し、多分高齢者になると予約の仕方とかがスマホを使ったりとか、それでも厳しいと思うので、デジタル化でうまく予約が簡単にできるようになれば、もう少し利用者は増えるんじゃないかなと思います。

市長

はい、のるーとでありますけれども、高齢者の方とか予約の仕方を勉強するような、そういう会も設けておりますし、もう一つ、電話でもですね、受付をしておりますので、まずは電話をかけて、ここからここへ行きたいって相談をします。ちょうど昔の大門のイトーヨーカドーがあったあのビルの中で、のるーとが今どこを走っていて、どういう風に動いているかと見れるそういうシステムがありますし、そのいったところにご案内をできますので、ぜひ使っていただきたいなと思っております。高齢者の移動手段としていい移動手段になってますし、キャッシュレスはですね、来年の3月からキャッシュレスでのるーとサービス使えるようになりますので、そのいったところを日々前進をしていきたいと思っています。

頂いた質問でひとつね、なかなか予約が取れないという皆さんうなずいていらっしゃいますけども、そういうお声も大きくいただいておりますので、運行体系もどういうふうにしていくかの分析をしております。例えば、一定の時間に同じ方向に向かう方が多ければ、その時間はで

すね、セミデマンドと言いまして、時間を指定で、ここからここまで走らせちゃうとか、そういうようなやり方をしていくと解決できる課題がありますので、のるーとに関しては、どこをどういう風に、どういうお客様が乗って、どういう経路を通っているのか、そういうデーターが蓄積をされていて、それを最適化しながら運行してますので、乗りやすい乗り物にしていきたいと思っています。ありがとうございます。

市民

あんまり同じような話を各地区でやっててもつまんないと思うんで、少し視点の違った質問をさせていただきます。FPプロジェクトって昔はありましたね、それで初期のオーナーというかスポンサーからとったっていう、そういったことというのが先程市長ちらっとお話しされたような気がするんですけど、いろんなコラボレーションスタイルを持ちながら大きめの事業をやっていくっていうことは今後必須になると思います。

具体的にお聞きしたいのは当初の事業計画通りいかなかった。なぜそうなってしまったかということと、今後見通しがついているのかということですね。最後が市長のさっきの話をとりますと、いろんなところとコラボレーションというのか、合同型の事業をやっていく時代になっていくと思うんです。その中で、市が、今回はこのテーマじゃ県と市とスポンサーさんという形だったと思うんですけども多分、契約に書いてなかったような事態あたりもいろいろ出てきて、一番ひどいなと思ったのは、オーナーさんが倒産してしまったという話を私は聞いてるんですが、そんなことはないのかな。その時に市として何をやったかというようなことですね。将来に向けての保証体制とか連携体制とかってことを考えた時に、市としてレッスンアンドランですね、どんな経験をしたのかというあたりをちょっと聞いてみたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。ご心配をおかけしました信州Fパワープロジェクトでございますけれども、計画どおりいかなかつたところにはもう複数の要因がございます。まずは、やはり資材とか物価が高騰した、そしてもう一つは、必要な材が集まつてこなかつた、そういう状況がございますけども、今は令和5年の8月に1度、いわゆる経営破綻をして、別会社が引き継いでおりますけれども、今期初めてですね、単年では黒字になる、そういう見通しが立っております。

Fパワーの周辺をぐるっと回っていただくと、最初の頃に比べても木の置き場所がないぐら

いですね 今、材が集まってきております。そういう状況ですので、今はですね、毎日水蒸気が見えるので、あれで稼働状況はわかりますけども、極めて安定的な稼働をしております。私どももですね再生可能エネルギーということで、未来につなぐプロジェクトとして進めていきましたので、これからも市としてしっかりと責任を持ちながら、また皆さんにも経営状況の説明をしながら進めていきたいと思っております。

そして、もう一つ、オーナーの話をされましたけど、Fパワーのプロジェクトの関係とはまた別で、その契約上のってことなんですかね。Fパワーも先ほど申し上げましたとおり、従来の最初に始めた事業者が経営が立ち行かなくなってしまったという経験があります。ただ、しかしながら、振り返ってみると、やはり社会的な価値がある事業であったと思っておりますので、Fパワーのプロジェクト、まだまだようやくここで黒字転換になったところですけども、例えば5年先を見た時にですね、もっと前の段階、10年先を前に見たときに、10年前によく着想したなと言われるような、そういう事業にこれから築き上げていかなければならぬと思っております。時代の先を行く、そういう取り組みであったと思いますので、しっかりとモノにしていきたいと思っております。

今、民間企業の協業でいきますと、時代のちょっと先を行く取り組みとしては自動運転を進めておりますが、こういった民間企業との協業で成り立っておりますが、しっかりと市も責任を負いつつ、また民間と市の連携の良さから、お互いが双赢になるような、そんな事業にしていきたいと思っております。

市民

全く個人的なことなんですが、私、1区に住んでおります。空き家を持っているんですけども、空き家を壊した後の土地の利用ができないです。市街化調整区域ってことと、道幅の問題で、市には3回ぐらい相談に行きました。毎年一回ずつ行ってるんですけど、今年も行きました。建設課行って聞いたんですけど今年、対応ができないって言われました。その市街化調整区域と道幅の件を解消していただきたいと思いますけど。以上です。

市長

はい、わかりました。吉田1区で調整区域になると、なかなか調整区域の制約がかかっております。また、道路の幅員が4mとかないとですね、建物を建てる時に接道がなくて制約がかかる場合がありますけども、個別のケースをですね、建設の方で詳しく聞いてると思います

ので、建設課のみならず、建築住宅課であったり、両方に行っておるわけですね。

市民

今年、建設住宅課の対応ができないと言われました。

市長

わかりました。対応ができない土地をお持ちなので困っちゃうと思いますんで、それは当然ですね、いろいろな策があるかどうか検討させていただきます。後ほどね、連絡先聞いてると思うんで、また他の後で詳しく建設部長とお話ししますけども、調整区域の土地の流動性が低いことは今大きな課題になっております。柿沢とかみどり湖等々で今、地区計画というのを建てて、調整区域の土地が流動化するような、そんな取り組みも進めておりますので、またいろいろな開発の手法等も検討しながら、そこは相談しながら進めていきたいと思いますので、またこの後ご連絡先聞いてしっかりと進めていきたいと思います。色々とご心配、ご迷惑をおかけしまして申し訳ございません。

市民

高齢者の移動手段についての要望になるんですけども、実は私は民生委員やっておりまして、日頃高齢者の皆さんとの見守りということで訪問させていただいてまして、移動についてのるーとが今のところあるんですが、ただのるーとは、乗り降りするところが決まってるということで、普通の人でしたら歩いて行ける距離なんんですけども、なかなか高齢者の皆さんになると足腰が弱ってなかなかそこまで歩いて行けないという方が結構多くいらっしゃいます。それで結局現在のるーとが活用できなくて、タクシーに頼らざるを得ないということで、そのタクシーライドが非常に負担になってるという声を、私もそうなんですが、私以外の民生委員さんの見守りをされている方からも非常に声があることを聞いてます。

それで、高齢者の今後移動をですね、いろいろ検討していただく場合のるーととはまた別にですね、そういう高齢者の方でそこまで停留所に歩いていけない方も一定数おられるということですので、そういった方も考慮に入れてですね、ぜひそういう方たちの移動手段はどうしたいいかということを検討していただければありがたいなというふうに思ってます。以上です。

市長

はい、ありがとうございます。高齢者のみなさん、状況によってはですね、タクシーの利用の助成金がありまして、500円券を年間30枚を限度で出すような、そういう制度があります。今のお話にあったバス停まで行かれないという声は非常に多く聞いておりますので、そのラストワンマイルをね、バス停までをどうつなぐというのが大きな課題であります。なおかつ、今タクシーがなかなかですね、つかまらないという、そういう大きな交通課題も抱えておりますので、いただきましたご意見を、また何かしらいろいろなデータは分析しておりますので、吉田地区ですとタクシーの利用券を使ってる方が65名いるんですけども、利用率は65%と半分ぐらい使われてなつたりとか、そんな状況もありますので、分析をしながらより良い方法を考えていきたいと思っております。

また、民生委員の活動、誠にありがとうございます。今年改選期を迎えておりますけれど、まだ吉田地区も吉田3区と4区ですね、なかなか見つからないと、そういう状況を伺っておりますので、市もできる限り相談を一緒になってまた探していくかなければならないと思ってます。どうもありがとうございます。

市民

今まであまりお話出ていなかったんですけど、若者とか子育て世代のことに関して、私が感じていることをお話しできればなと思います。周りですと、私の弟が今年子供を産みまして、家を買うってなった時に、どうしても土地が高かったりとか、家を建てる費用がっていうところで建壳の家を買って、今、お子さん一人とご夫婦で生活をしてらっしゃいます。結構他でも塩尻で、家を建てたいけど地価が高くて家が建てられないっていう声がすごい自分の周りでも結構多いので、素人考えですけど、空き家問題とか土地のところをうまく活用して、住みたいっていう方が住めるような土地になれば、空いて困ってる土地っていうのと、住みたいっていう方がつながるんじゃないかなっていうのを一つ思いました。

もう1点が、結構自分の周りだと同世代で地元に残っていたりとか、あとはこちらに戻ってきて家を建てて住んでいるっていうご家族も結構いらっしゃるので、高齢者の方への対策はもちろんんですけども、若者の子育て世代はもちろん、もう一人、二人子供が欲しいなっていう方が気兼ねなく子育てができるような環境になれば、もっと塩尻市も良くなるんじゃないかなと思っているので、その辺で何かお考えがあればお聞かせ願いたいです。よろしくお願ひ

します。

市長

はい、ありがとうございます。今ご指摘の通り、土地が高くなりすぎていてなかなか手に入らない、そういう状況がございます。塩尻高いところは坪20万を超えてきております。今、中信平で一番人を受け入れてるところが安曇野市でありまして、安曇野市っていうのは一番高くて12万円ぐらいだという、そういうお話があって、やはり塩尻はもう高過ぎて選ばれない町になっているという声は多く聞いておりますので、そといった中で優良な宅地を提供していくことは必要な事業だと思っております。

そして、空き家の活用というお話がありましたけれども、空き家も壊して更地にする、また流動化するような、そういうとこの後で説明しますけども、そういう制度もあります。また、宅地で言いますと、吉田地区も今若宮というちょうど松本寄りのところですね、若宮団地の下を宅地開発できないかという、そういう研究もしておりますので、おっしゃる通り住むところの土地がなければもともと進んでいかない、そういうところがありますので、しっかりとその土地の流動化が図れるような対策を進めていきたいと思っております。

また、子育て世代に対する策でございますけれども、いわゆる経済的とか、そといったところは保育料の第2子以降の無料化であったり、様々な子育てに対する伴走支援は充実しております。また、塩尻市の自校給食、各学校で給食を作っているというのは、もう大分そういう自治体が少なくなってきたんですけども、おいしい給食を提供しているようになっております。子供たちを育てる皆さんから選ばれる地域というのは、これはね、10年先、20年先にその成果が表れて、自治体の力になっていくものでありますので、そといったところに選ばれる町になっていきたいと思います。

もうちょっと具体的ですね、例えばこんなことをやってもらったら私としては嬉しいなみたいな、そんなことあればお聞かせいただければと思うんですが。

市民

私自身、勉強不足なところはあるんですけども、例えば私の家、広丘の5区に住んでいるんですけど、結構近くにすごいたくさん新しい家が建っているんですけど、反対にずっと空き家というか、空き地になっている土地もあって、新しく家を建てるっていうのはすごく労力のかかることで、お金もたくさんかかることなので。一方で、空き家があって困っているっていう

ところで、本当に素人考えなんですけど、例えば市としてどうにかその土地に住んでもらったら、管理の手間も住んでいる方ができるっていうところで、そこに住んだら市としてちょっと補助金等を出して、相場よりはちょっと安いけど、市としては利益っていうとあれですけど、収入になるみたいなことができれば、多少どうしても塩尻に住みたいっていう方がちょっと高いけど、安いなら相場より安いならというようなところで手助けができるようなことがあればいいのかなと、素人ながら思っています。

市長

はい、ありがとうございます 非常に大事な観点だと思います。一つ、空き家バンクという制度がありますので、部長の方からお話しします。

建設部長

今、市長の言われたとおり、塩尻市空き家バンクという制度があって、先ほどの方も空き家を持っていて困っている方、逆に空き家、今のように新しい建物を建てるまでにはやっぱり資金的に大変だというところで、空き家を活用しながら住みたいといった、そういう方たちをマッチングするような形で、今、塩尻街元気カンパニーというところで窓口を持っておりまして、それは市も当然入っておりますけれども、その空き家対策としてやっているところがありますので、ぜひそういったところに具体的にご相談いただければですね、その中には空き家の対策協議会という形で、市内の不動産業者も入って、いろんな情報を持っている方おりますので、そういった中でですね、それぞれの課題に対してマッチングできればいいかなと今、塩尻市でも一生懸命進めていますので、そういったところをぜひ参考にしながら利用していただければと思います。

市長

はい、ご参考までにですね、今、私どもが捕捉している空き家の数ですけれども、吉田地区全体で2470戸あります、空き家の戸数76戸ございます。3.1%100戸家があれば、3つは空き家と、そういうような状況で捉えています。貴重なご意見、ありがとうございました。

市民

私、3年前にずっと転勤族で周っていて、実家で父母が亡くなったんで、ずっと空き家だったんですけど、戻ってきました。もう本当にいろんなところ周りましたけど塩尻ここはね素晴らしいんですよ。今まで行ったところで一番私は来てよかったです。それも皆さん、何もない、何もないって言うんだけど、何にもないのが魅力で、本当に空気がおいしくて、自然に恵まれて、でも地域のコミュニティーというか、みんなが助け合いの精神が残っていて、本当に日本だなっていう感じがしてですね、本当にそうやって繋げてきていただいた方に本当に感謝申し上げます。たださっきの空き家の件なんですけど、私が来て3年間の間ぐらいいに子育て世代の方が3軒戻ってきたり、新しく家を建てたりとかあります、すごく心配してたんですけども、こういうこともあるんだなと空き家だったところが解体されて、そこがすぐに家を建てる方が決まって、来年に赤ちゃん連れた方が入って来られるってことで、だんだん集落も明るくなってきて、いい感じになってきてます。そんなこともあるんですけど、ほんと不便なところもあるけど、やっぱり一番大事なのが安心安全なところ、安心して子育てができるっていうところが、一番大事なんじゃないかっていうふうに思いました。

そこで私個人的に残念なのは、さっきから言われてる工業団地ですよね。申し訳ないけど、私個人的には結構まとまった水田がなくなってしまうってことはとても残念なんです。でも進めるっていうところなので、できればその進捗状態というか、情報を、こういうところが来るよとか、こういう感じのものができるよっていうのを、もちろんそのオーナーさんもでしょうけれども、近隣の人達にみんなに行き渡らせていただきたいと。今回の開発のことも8月に新聞で知ったんですよね そういうこともあって、みんなが分かって意見がある人は吸い上げてもらえるっていう道筋をなんとか作っていっていただけないでしょうかっていうことがあります。いろんな懸念があるので、心配なところとか、こうしてほしいっていうところもあると思うので、その辺をお願いしたいと思います。

市長

工業団地の関係ですけれども、これは工業団地のまずは第一義的には地権者の協力というのが必須でございますけれども、周辺に与える影響というのも、大きいというのは理解をしておりますので、そこは今度は説明責任が私どもにありますので、今ちょうどどういうような形でできるのかというところを検討しておりますけれども、ステップ、ステップですね、ちゃんと皆さんにわかるようにしっかりとお話をていきたいと思ってます。

市民

それに関連して、私、2年前から素人ですけど、お米づくりをしてまして、それでいろいろ本当に農家の入って大変なんだなって思ったり、収穫できて楽しいなっていうのもあったりとかして、今農家の方って70から75歳ぐらいの方がメインでされてて、だんだん具合も悪くなってきて、本当に近々で大丈夫なのかなと。後継者問題ですよね。後継者と農地、水田だったり、そういうところもなるべく残していただきたいっていうのがあって、そこを市としてどういうふうに取り組んでいらっしゃるかっていうことなんです。

ずっと都会にいたので、都会の人たちからはうらやましがられて、本当に田んぼやりたいと。土日でも行ってやりたいとか、塩尻市内でも田んぼやりたいとかって言う人いっぱいいるんで、若い人達でも。なのでそのマッチングというか、その辺のところされてるのかなと思うんですけども、どういうふうに取組されてるかっていうことをお聞きしたいです。

市長

はい、ありがとうございます。まず農業の関係ですが、ご指摘の後継者の不足がございまして、非常に危機的な状況であります。私ども遊休荒廃地、使われない農地を出さないために一生懸命色々やってますけれども、まだ吉田の辺はいいんですけども、いわゆる周辺部においては非常に課題になっていて、クマがね、まちに出てくるのもその影響があるんじゃないかなというお話もあるぐらいであります。農地に関してのマッチングという面で言いますと、農地バンクというマッチングを図る機関がありますので、そういったマッチングをしていきたいと思っておりますし、また、農業の方もですね、集約化というのが進んでおりまして、吉田ですとテヅカライスさんとかがですね、大規模に農業をやっている、そういう状況もございますけれども、やはり農業ができなくなったらそういうとこにお任せするのも一つですし、やる気のある人はですね、逆に農地を紹介して農業をやってもらうような、そんな方向性にしていきたいと思っております。

農業って食べるものを作る産業ってなくてはならない、そういう産業でございますので、しっかりと育てていきたいと思っております。また、冒頭、過分なお言葉をいただきましてありがとうございました。

市民

ありがとうございます。農業に関しては、食の安全っていうところで、今は平時なのであれですけど、有事になった時に長野県の役目ってすごい大事だと思っているんです。本当に日本の食糧倉庫じゃないかと思うそういう意気で塩尻もその一端を担うところだろうと思いますし、水源地も抱えているので、やっぱり山を豊かに田んぼを豊かに農業を1次産業をっていうところで何とか繋いでいっていただきたいなと思いました、お話しさせていただきました。どうもありがとうございました。

市長

ありがとうございました。農業をしっかりと守っていきたいと思っております。ありがとうございます。

市民

今田んぼの話が出たので、私の方もお願いがあつて来たんですけど私も今年仲間と田んぼを始めたんですけども、まず土地をお借りする時に機械があるかどうかっていう確認をされまして、それで今回いろんな方のお力をいただいて、何とかいろんな方から脱穀だったりとか、稻刈りの機械をお借りして協力して何とかできたんですが、まず機械がないと土地を貸していただけないということがありまして、先ほど若者が田んぼとかやりたいって言うと、お米も不足してるし、安全のお米、自分たちで作りたいっていう方も増えてると思うんですけども、機械が借りれないっていう、持ってる方も少ないし、小さい規模だと小さい機械が欲しいんですけど、持ってる方も少ないし、買うとしてもすごいお金がかかって、初期投資にそこまでできないっていう方も多いと思うので、ぜひ市の方でそういう小規模で自分たちでやりたいっていう人も多い中で、機械を貸していただけるような機関があるとすごく助かると思うので、ぜひご検討いただけたらと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。農業って、機械に対する投資ってすごく大きなものになっております。吉田地区ですと機械化の共同利用の組合がありますけれども、どうしても大規模な農家になっていきますので、そこは一つ、皆さんが農業をやる時に機械が使い合えるような、そんな仕組みもね、考えていかなければならぬと思いますが、いろいろな制度を巡ら

してみても、やる時に皆さん集中するので、どういうふうに分散を図るかとか、そういう課題もあるうかと思いますけども、貴重なご意見として承りたいと思います。ありがとうございます。

市民

今ご意見された方と私仲間で、同じことでした。なんですが、本当に今年の本当に寒い時、1月ぐらいに今年はお米がなくて大変だったっていうのも皆さんあると思うんですが、それを昨年から感じまして、仲間と自分たちでもできないかって全く素人で、私なんか本当に子供の頃からも一回も田んぼをやったことなかったんですが、仲間と市の方に行ったらたくさん空いているところがあるっていうことから始められてできたんですね なので本当に子供たちと一緒に手植え手で田植えをしたりとか、家族でやったことが本当にいい経験でしたし、こんな素人のおばさんでも女性だけでもできるってことが分かったので、自分の食べるお米を作っていく喜びというか、今年収穫できて、本当においしいお米が食べれてすごく幸せを感じているので、この塩尻市で皆さんがもっと本当に小規模でやっていけるような仕組みを本当に願いできたらと思いました。よろしくお願ひします。

市長

はい、ありがとうございます。農業、本当に後継者がなくて大変厳しい状況にある中で、いろんな皆さんのが入って農業を作っていくというのがありますし、自分で作ったものが一番おいしいものになっていきますので、そんなまちを作りたいと思います。ありがとうございます。

お時間になりましたので、この辺で対話の方は閉じさせていきたいと思っております。今日は本当に様々な貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今日、まだ発言したくても言えなかった方もいらっしゃるかと思いますけれども、私、出来る限りですね、いろいろな地域のイベントに足を運んだりしております。今年は吉田の文化祭、顔を出せずに申し訳なく思ってるんですけども、また街で見かけた時に、市長さんて声をかけていただいて、お気軽に話をしていただければと思っております。

皆様方の貴重な意見の一つ一つが住みよい、そしていい塩尻市を作りますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。私どももその意見をもとに、いい吉田地区をつくってまいりたいと思います。そのために皆さんのが声は必要ですので、引き続き大きな大きなご協

力を賜りますよう、よろしくお願ひを申し上げまして、私からの今日のタウンミーティング、閉じたいと思います。今日はどうもありがとうございました。